

八頭町人口ビジョン

鳥取県八頭町

平成 27 年 9 月

令和 2 年 3 月改定

はじめに

本町では、「第2次八頭町総合計画」（平成27年度～令和6年度）において、人口減少対策を重点プロジェクトに位置付け、同時に「八頭町人口減少対策ビジョン」（平成27年度～令和元年度）を策定し、人口減少対策に取り組んできました。

また、国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（平成26年12月策定）、県の「鳥取県人口ビジョン」（平成27年10月策定）に合わせ、本町においても、平成27年10月に「八頭町人口ビジョン」を策定し、「八頭町総合戦略」（平成27年度～令和元年度）により、人口減少対策と地方創生に取り組んできました。

このたび、近年の人口減少・少子高齢化の現状を把握し、今後の将来展望を見直し、示すことで、本町の「第2次八頭町総合計画」及び「第2期八頭町総合戦略」等の取り組みの方向性に資するものとするため、「八頭町人口ビジョン」を改定します。

I 基本的な考え方

1 ビジョン策定の趣旨・位置づけ

国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」、県の「鳥取県人口ビジョン」を勘案し、八頭町の人口の現状を分析し、人口に関する住民の認識を共有し、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示する。

2 推計期間

2060年(令和42年)まで

II 人口ビジョン

【全国的な動き】

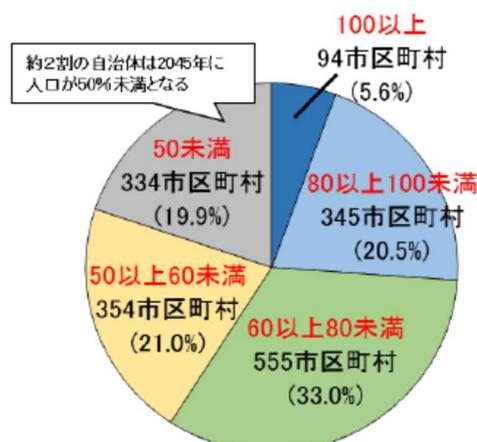
国の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、日本の総人口は、2008年の1億2,808万人をピークに減少局面に移行しており、2018年10月1日時点の総人口は1億2,644万3千人、2018年の出生数は1899年の調査開始以来最低の91万8千人を記録した。

国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という)「日本の将来推計人口(平成29年推計)」の出生中位(死亡中位)推計によると、2020年代初めは毎年50万人程度の減少であるが、それが2040年代頃には毎年90万人程度の減少スピードにまで加速し、2060年の総人口は9,284万人にまで減少するとされている。

社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」によると、各市区町村の2015年の総人口を100としたとき、2045年に指数が100を超える、すなわち2015年より総人口が増えるのは94市区町村(全市区町村の5.6%)と推計されている。残る1,588市区町村(94.4%)は指数が100未満である。このうちの334市区町村(19.9%)では指数が50未満、すなわち2015年に比べて総人口が半分を下回ると推計されている。

地方の人口が減少し、地方から大都市への人材供給が枯渇すると、いずれ大都市も衰退する。地方から始まり、既に地方の中核都市にも及んでいる日本の人口減少は、最後は大都市を巻き込んで広がっていく。

2045年における総人口の指数別市区町村数と割合

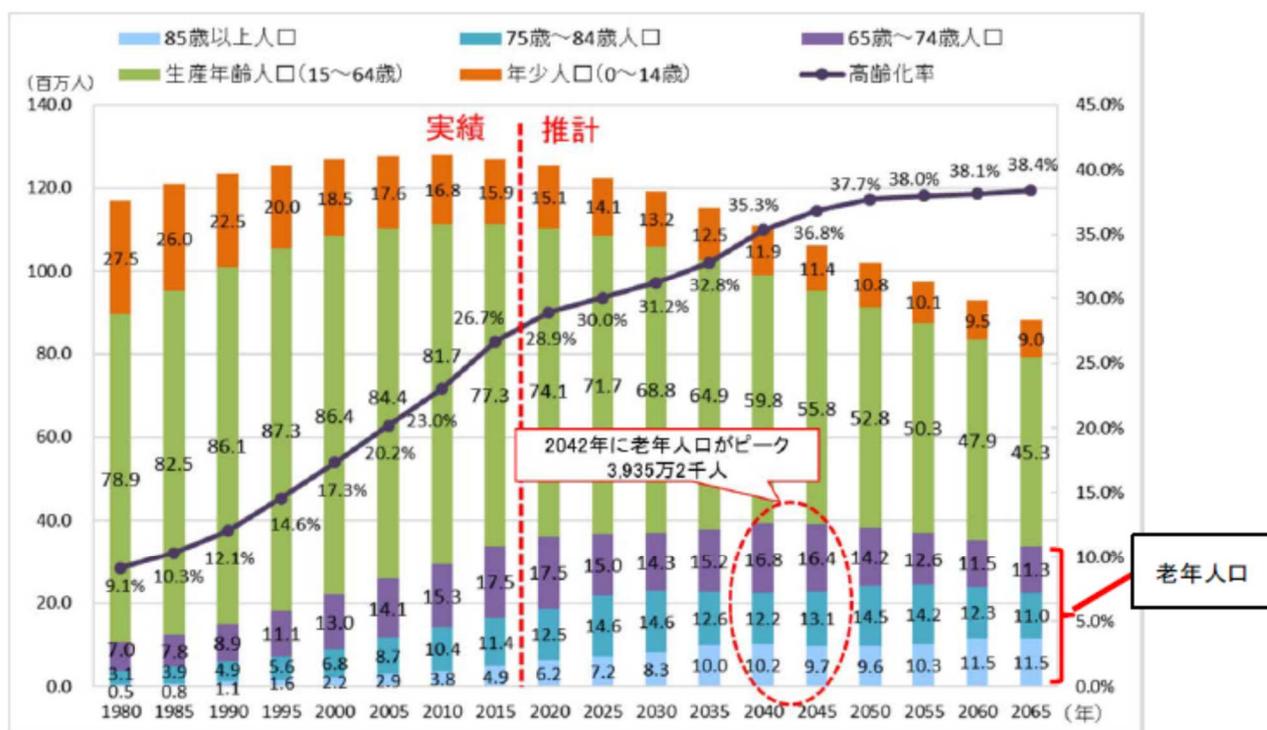


(資料：内閣府「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」抜粋)

※赤字は「2015年の人口」=100とした場合の「2045年の人口」

2018年10月1日時点で、日本の老年人口(65歳以上)は3,557万8千人で、高齢化率(総人口に占める老年人口の割合)は28.1%となった。社人研「日本の将来推計人口(平成29年推計)」によると、老年人口は増加を続け、2042年に3,935万2千人で、ピークを迎えると推計されている。その後、総人口の減少とともに老年人口も減少するが、高齢化率は上昇を続け、2060年には38%を超える水準まで高まると推計されている。

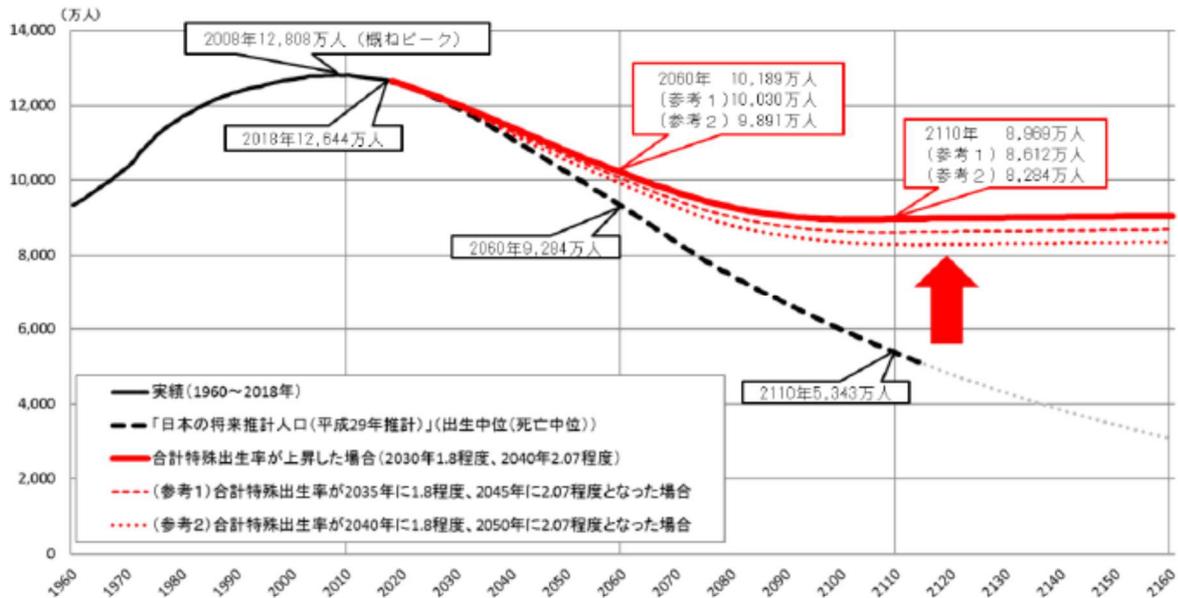
年齢区分別人口の実績と将来推計



(2015年までの実績) 総務省「国勢調査」において年齢不詳を按分のうえ作成。
 (2020年以降の推計) 社人研「将来推計人口(平成29年推計)」(出生中位(死亡中位))により作成。

こうした状況を踏まえ、「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」では、若い世代の結婚・出産・子育てへの希望の実現に取り組み、出生率の向上を図ることで、2040年に出生率が人口置換水準と同程度の値である2.07とし、2060年に総人口1億人の確保を目標とし、将来にわたって、過度な一極集中のない活力ある日本社会を維持することを目指している。

国の人口の推移と長期的な見通し



(注1) 実績は、総務省「国勢調査」等による（各年10月1日現在の人口）。

社人研「日本の将来推計人口（平成29年推計）」は出生中位（死亡中位）の仮定による。

2115～2160年の点線は2110年までの仮定等をもとに、まち・ひと・しごと創生本部事務局において、機械的に延長したものである。

(注2) 「合計特殊出生率が上昇した場合」は、経済財政諮問会議専門調査会「選択する未来」委員会における人口の将来推計を参考にしながら、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合について、まち・ひと・しごと創生本部事務局において推計を行ったものである。

(注3) 社人研「人口統計資料集2019」によると、人口置換水準は、2001年から2016年は2.07で推移し、2017年は2.06となっている。

1 人口の現状分析

(1) 人口動向分析

八頭町の総人口は、1980年(昭和55年)から1985年(昭和60年)にかけてやや増加したものの、これ以降、急速に減少している。

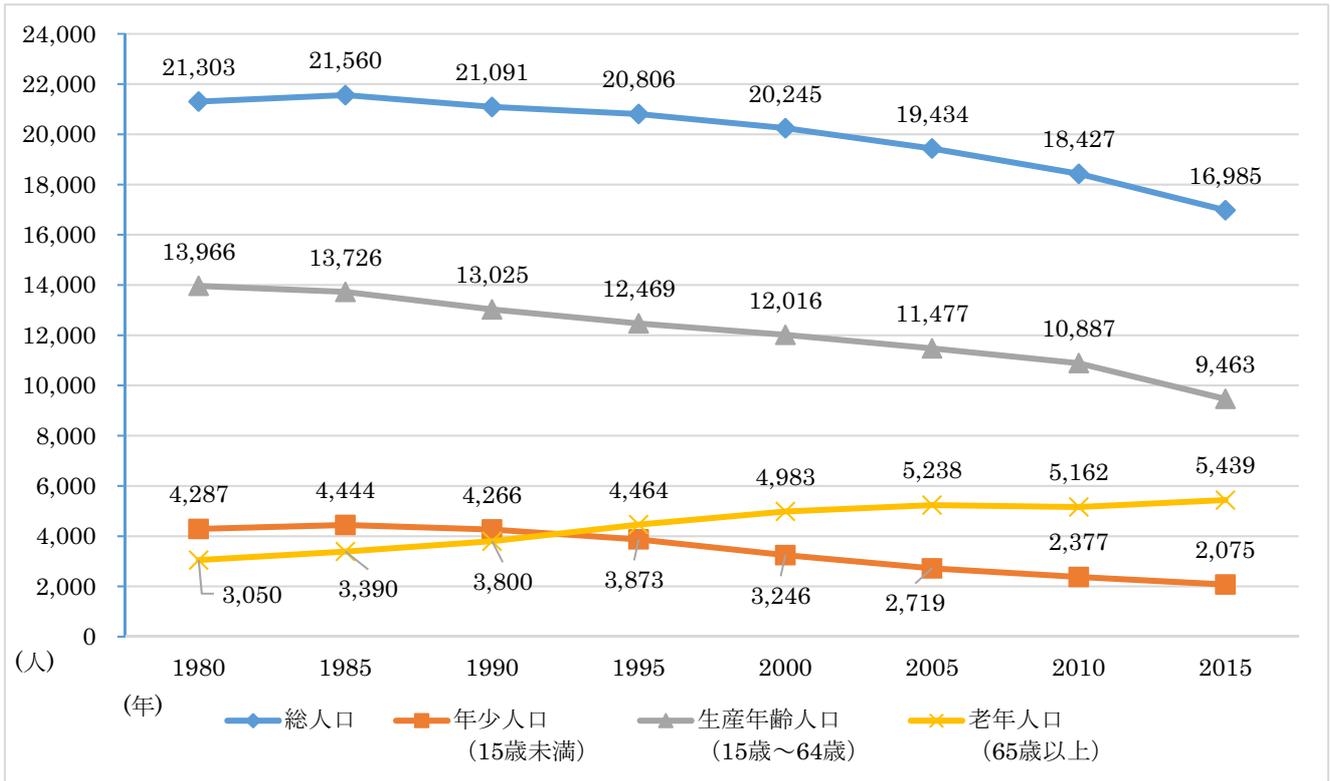
年少人口(15歳未満)についても、1985年(昭和60年)の4,444人以降減少を続けており、2015年(平成27年)には、当該年と比較して半数以下に減少している。

また、老年人口は、1990年代前半には年少人口を上回り、2005年(平成17年)から2010年(平成22年)にかけて微減しているものの、概ね国勢調査年ごとに1割ずつ増加しており、既に年少人口の倍以上の数値となっている。

年少人口割合は、鳥取県全体と比べて低い水準で推移している一方、老年人口割合は、高い水準で推移しており、少子高齢化が県全体と比べても早い段階で進行していることがうかがえる。

合計特殊出生率については、年ごとの変動が大きいものの、近年、鳥取県全体よりは低い、国と同程度の傾向となっている。

八頭町の人口推移



(資料：総務省統計局「国勢調査」)

注) 総人口には「年齢不詳」を含むため、内訳を合計しても総数と一致しない場合があります。

八頭町の年齢別人口割合の推移

単位%

	昭和 55 年 (1980 年)	昭和 60 年 (1985 年)	平成 2 年 (1990 年)	平成 7 年 (1995 年)	平成 12 年 (2000 年)	平成 17 年 (2005 年)	平成 22 年 (2010 年)	平成 27 年 (2015 年)
年少人口	20.1 【21.6】	20.6 【21.2】	20.2 【19.2】	18.6 【17.1】	16.0 【15.3】	14.0 【14.0】	12.9 【13.4】	12.2 【12.8】
生産年齢人口	65.6 【66.0】	63.7 【65.0】	61.8 【64.5】	59.9 【63.6】	59.4 【62.6】	59.1 【61.9】	59.0 【60.3】	55.7 【56.9】
老年人口	14.3 【12.3】	15.7 【13.7】	18.0 【16.2】	21.5 【19.3】	24.6 【22.0】	27.0 【24.1】	28.0 【26.3】	32.0 【29.5】

(資料：総務省統計局「国勢調査」)

下段【 】は鳥取県全体の数値

合計特殊出生率の推移

	平成 22 年 (2010 年)	平成 23 年 (2011 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 25 年 (2013 年)	平成 26 年 (2014 年)	平成 27 年 (2015 年)	平成 28 年 (2016 年)	平成 29 年 (2017 年)	平成 30 年 (2018 年)
国	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44	1.43	1.42
鳥取県	1.54	1.58	1.57	1.62	1.60	1.65	1.60	1.66	1.61
八頭町	1.60	1.47	1.55	1.61	1.61	1.30	1.49	1.34	1.43

(資料：厚生労働省「人口動態調査」、鳥取県福祉保健課「人口動態統計」)

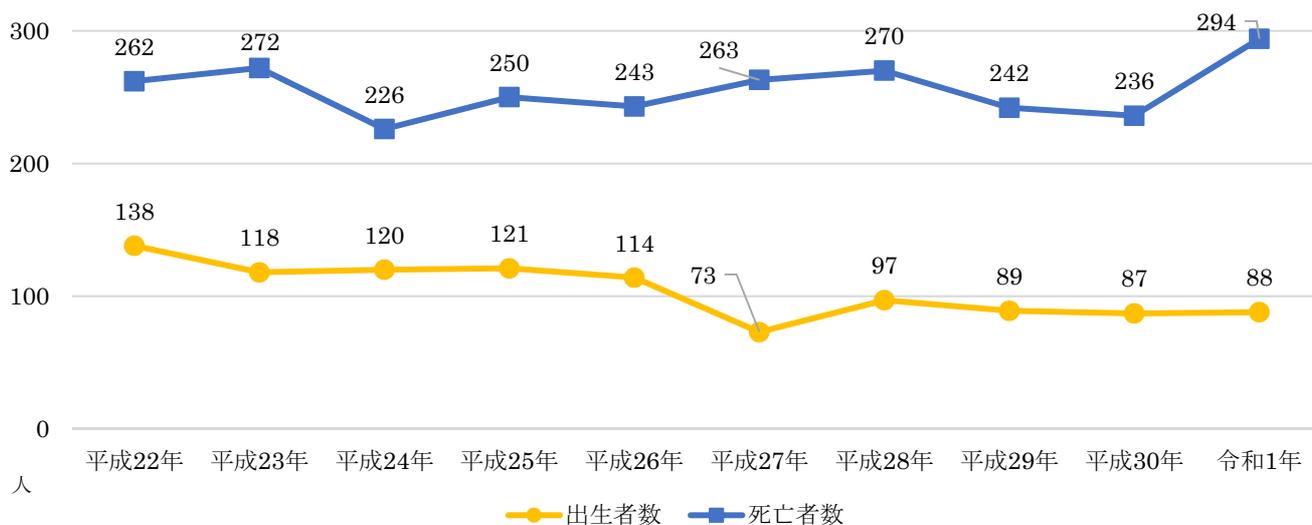
(2) 将来人口の推計と分析

八頭町では、死亡者数が出生者数を上回る自然減の状態と、転出者数が転入者数を上回る社会減の状態が続いている。自然減については、平成21年からの推移をみると死亡者数は概ね毎年250人程度の横ばいで推移しているものの、出生者数はやや減少傾向にあり、減少幅は広がりつつある。

また、社会減については、転出者数、転入者数とも減少傾向にあるが、両者の差は縮まっていく傾向を示している。

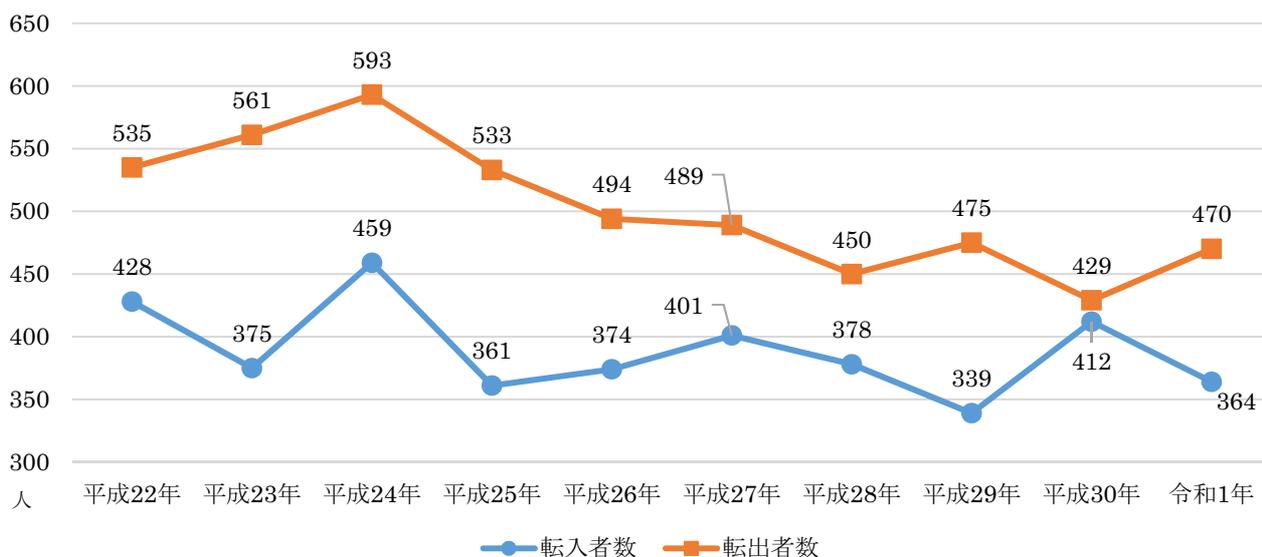
人口移動の状況については、転入者、転出者ともに約4割が県外、約6割が県内の移動となっている。

八頭町の出生者数・死亡者数の推移



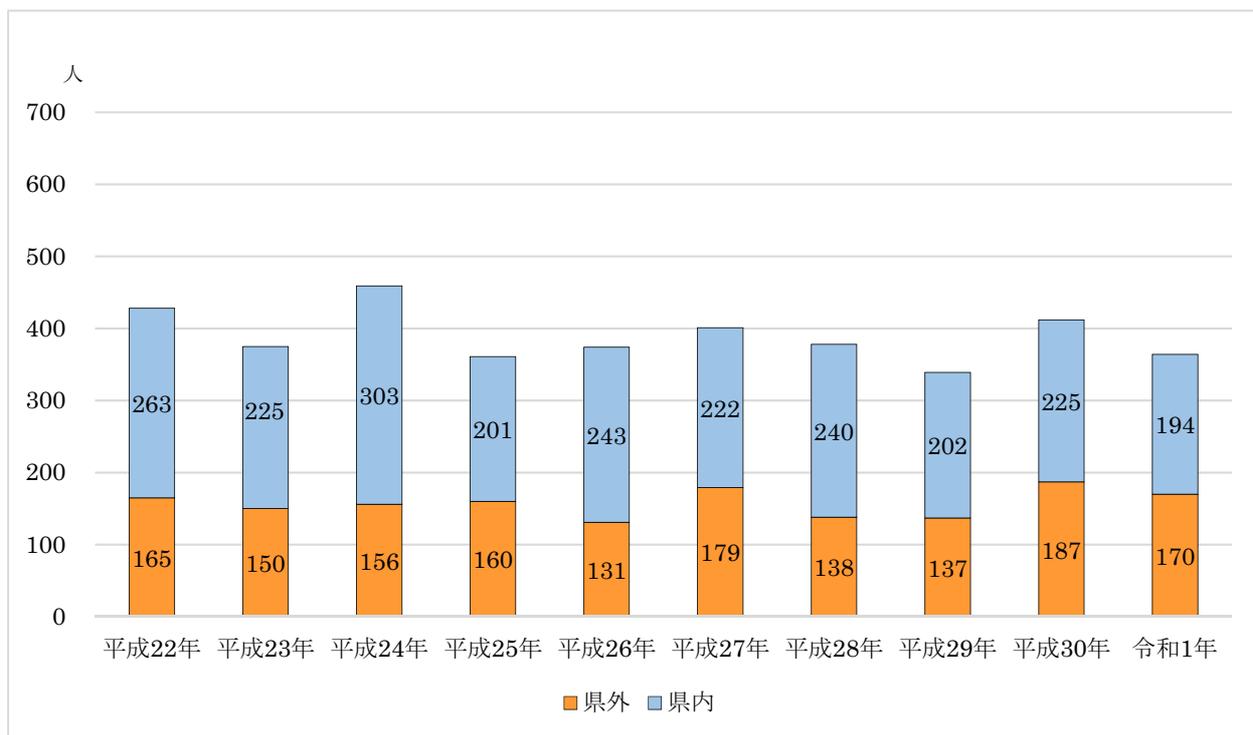
(資料：鳥取県統計課「鳥取県人口移動調査」)

八頭町の転入・転出者数の推移



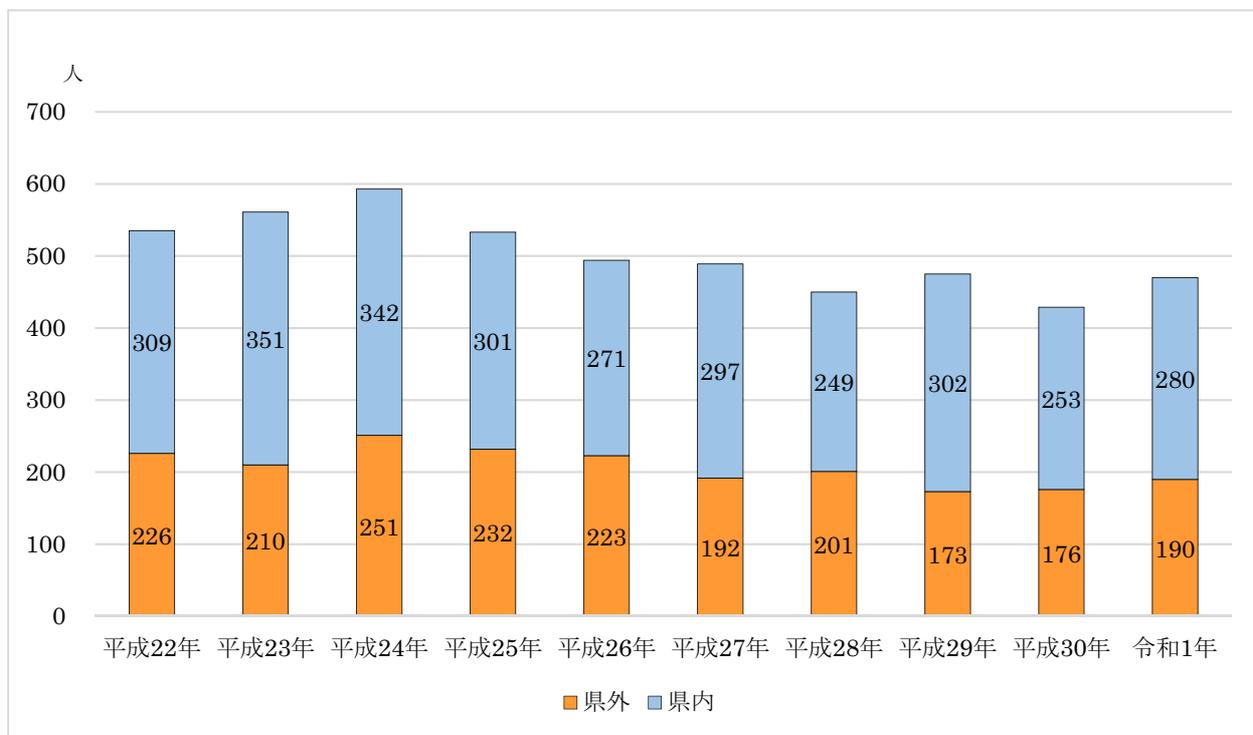
(資料：鳥取県統計課「鳥取県人口移動調査」)

人口移動の状況（転入者）



(資料：鳥取県統計課「鳥取県人口移動調査」)

人口移動の状況（転出者）



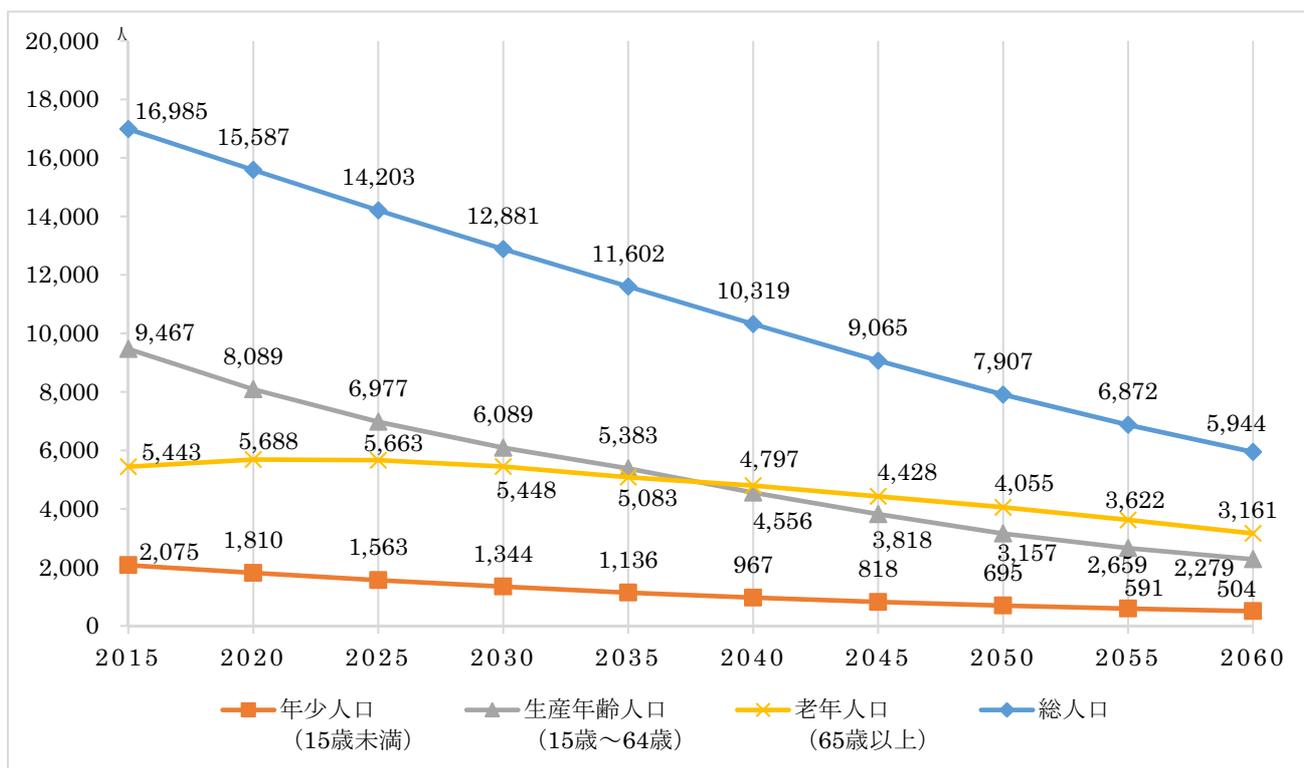
(資料：鳥取県統計課「鳥取県人口移動調査」)

(3) 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

八頭町の人口について、社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」準拠の推計によると、2060年(令和47年)には6,000人を下回ると推計されている。老年人口は2020年(令和2年)をピークに減少に転じるが、その割合は上昇し続け2030年(令和12年)には40%を超える。

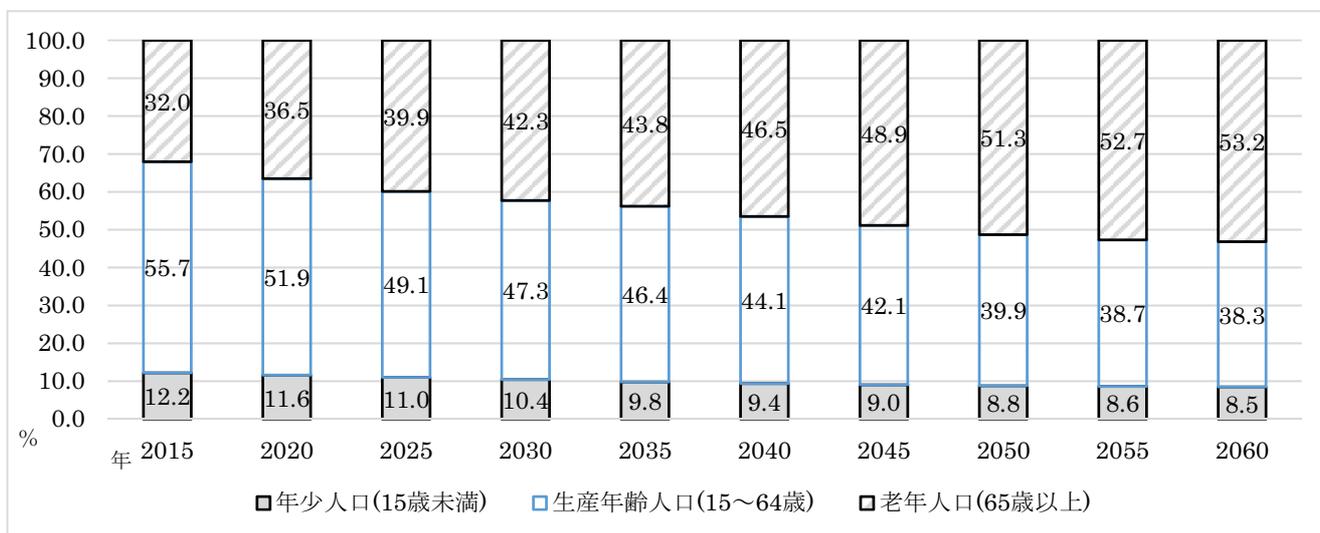
こうした形で少子高齢化の進行と過度の人口減少が進むことにより、生産年齢人口(15歳～64歳)の減少による産業活動の低迷、地域活力の低下、集落機能の維持が困難となるなど様々な問題が懸念される。

八頭町の将来人口推移



(資料：社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30年3月推計)」準拠による推計)

《年齢別人口割合の推移》



(資料：社人研「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」準拠による推計)

2 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向

① 取組の基本的視点

過度の少子高齢化、人口減少を抑えつつ、一方で、人口減少自体は避けられない課題であることから、「人口減少の進行の緩和」及び「人口減少により生じる課題への対応」という2つの視点が必要である。

② 目指すべき姿とその実現に向けた方策

上記視点のもとで「第2次八頭町総合計画」に掲げるまちの将来像である「人が輝き 未来が輝くまち 八頭町」の実現に向けて、以下の重点目標・取り組みを行います。

重点目標	取組分野	取組内容
① 八頭町で生き生き働く	若者活躍 産業・雇用	(1) 若者が活躍できるまちづくり (2) 地域産業の振興・雇用の促進
② 八頭町で伸び伸び子育て	子育て支援	(1) 子育て体制づくりの支援 (2) 子育て環境の充実
③ 八頭町で元気に暮らす	健康 福祉	(1) 地域で安心して暮らせる仕組みづくり (2) 健康寿命の延伸に向けた取組強化
④ 八頭町でキラキラ輝く	教育・人づくり 全世代活躍	(1) 魅力的な人材の育成・伝統文化の継承と 新しい文化の創造 (2) 誰もが活躍できる地域社会づくり
⑤ 八頭町で楽しく交流	観光・交流 関係人口	(1) 観光資源の活用や連携による誘客推進・ 受入態勢の整備 (2) U J I ターンの推進や関係人口・交流の 場の拡大

(2) 人口の将来展望

【目標人口】

2040年(令和22年)：13,000人／2060年(令和42年)：11,000人

合計特殊出生率の向上や社会移動による減少の逓減・解消を達成することにより、上記目標人口を維持することを目標とします。

こうした状況になることで、男女別・年齢階級別人口推移は、2015年(平成27年)での60歳～70歳の階級別人口が突出しアンバランスな形状から、2060年(令和42年)には不均衡が是正された形状に推移し、人口構造が安定する、本町の目指すべき姿に近づきます。

推計条件の概要

区分	社人研推計	町推計
基準人口	2015年(国勢調査人口)	2015年(国勢調査人口)
合計特殊出生率	1.55～1.57で推移。	2020年1.43(八頭町の直近(2018年)実績値) 2030年1.8(国民希望出生率) 2035年1.95(県民希望出生率) 2040年2.07(人口置換水準値) その後は一定。
移動率	2010年～2015年の社会移動傾向が今後も続く	2010年～2015年の社会移動傾向が2015年～2025年には半減、その後は社会減なし

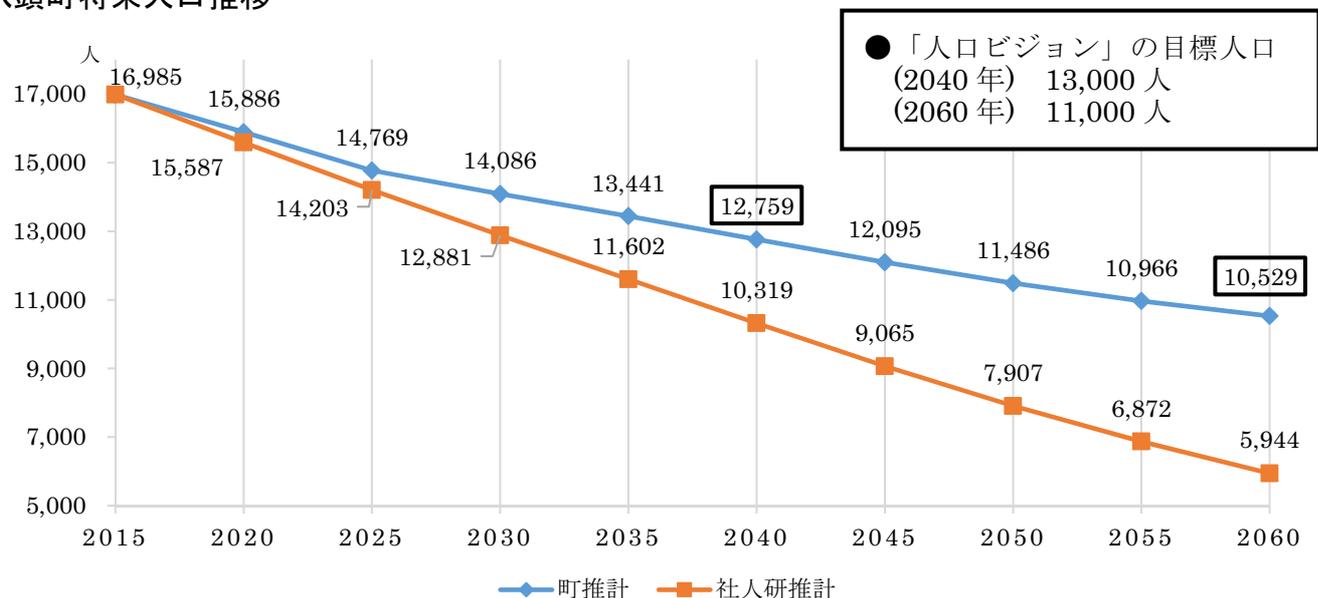
※合計特殊出生率：1年間における15～49歳の女性の年齢別出生率を合計した値

※希望出生率：子どもを産み育てたい人の希望を妨げる要因を取り除き、希望が叶った場合の出生率

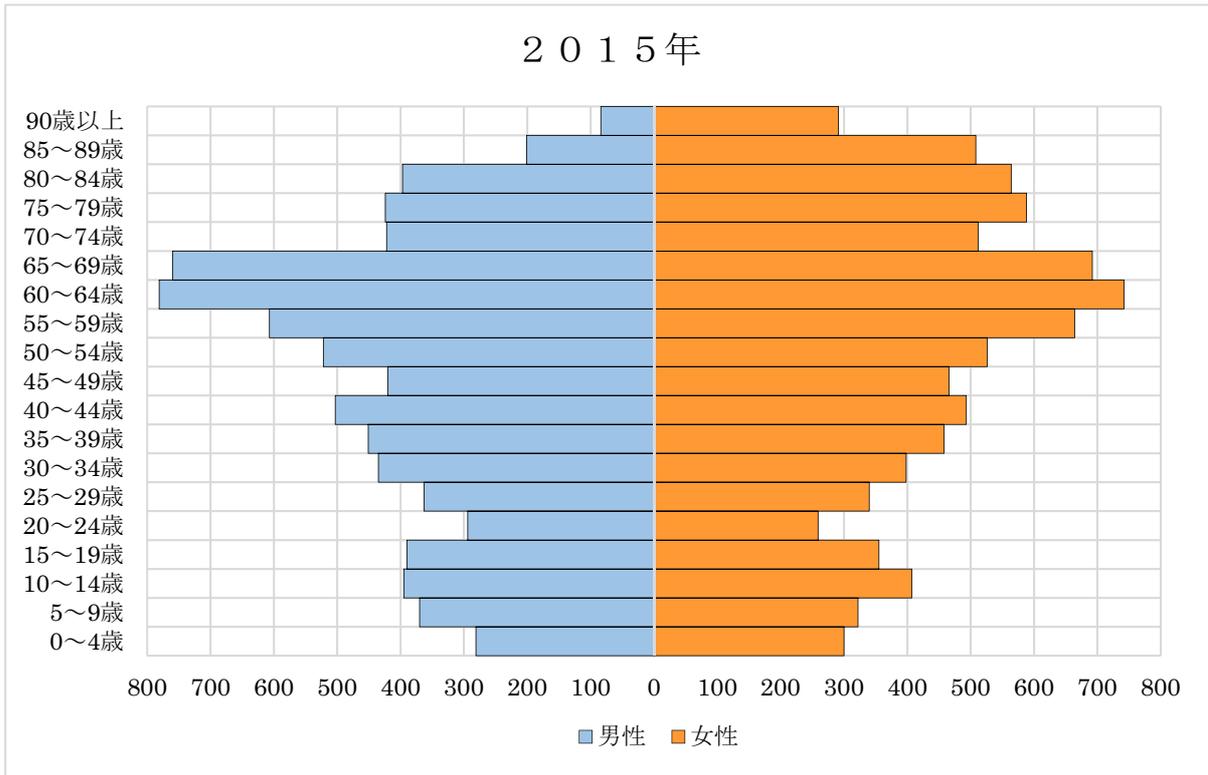
※人口置換水準：人口が増減しない均衡した状態となる合計特殊出生率の水準

※移動率：t年の年齢x～x+4歳の人口に関するt年～t+5年の5年間の移動数(転出入超過数)を、期首(t年)人口で割った値。

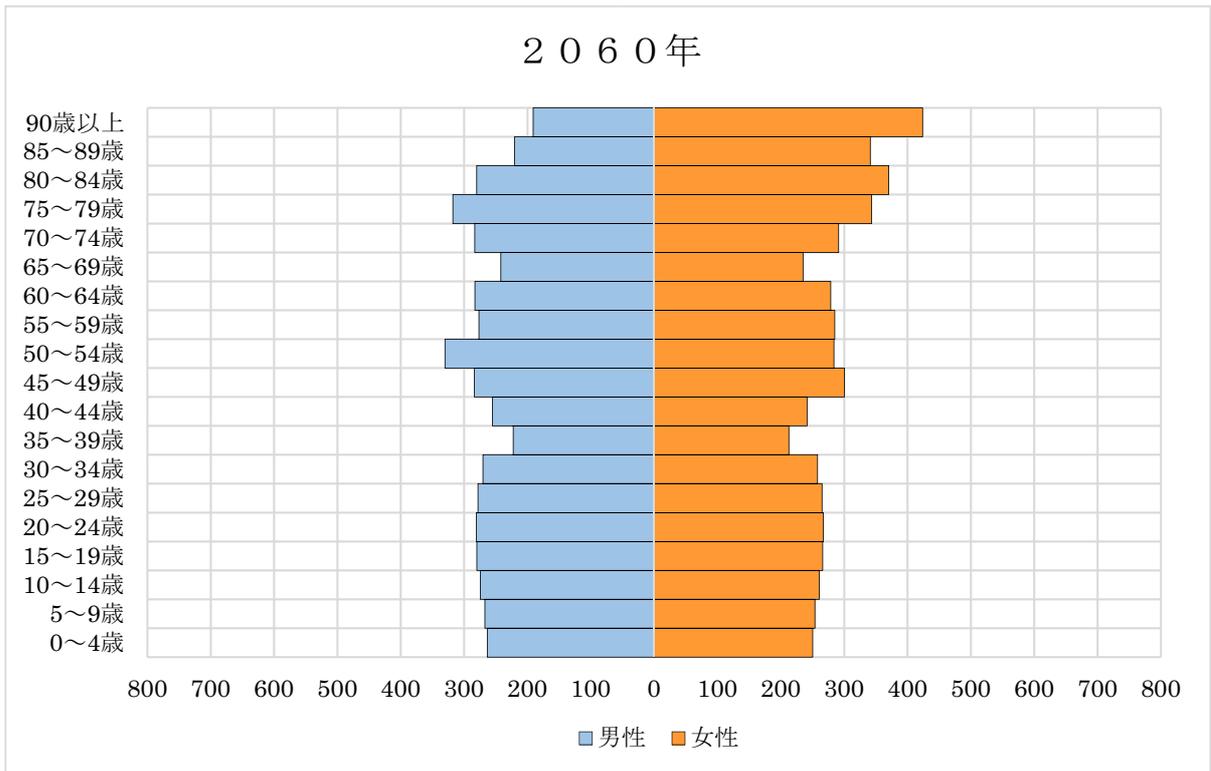
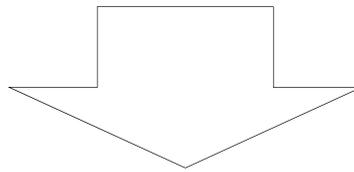
八頭町将来人口推移



男女別・年齢階級別人口推移



(総務省統計局「国勢調査」をもとに作成)



(町推計人口の推計値をもとに作成)